

富士通株式会社

## 第116期 中間報告書

自 2015年4月1日 至 2015年9月30日

### 株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第116期中間期(自 2015年4月1日 至 2015年9月30日)の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

田中 達也



当社は、本年、創立80周年を迎えました。80年という節目の年において、当社は、将来に向けて安定的に成長するため、急速に変化する市場に対応できるビジネスモデルの変革を目指しています。

私は、本年6月の定時株主総会での社長就任以降、**①サービス化へのシフト**、**②イノベーション領域での収益拡大**、**③グローバルでの成長力強化**という3つの課題認識のもと、当社の経営を行ってまいりましたが、当中間期における当社グループの連結業績は、売上収益において前年同期を上回ったものの、営業利益が前年同期を下回りました。詳細につきましては、P.2「2015年度中間期の連結決算概要」をご参照ください。

また、当中間期の配当金は、当中間期が当期損失ではあるものの、年初の計画に沿って進捗していることから、年初の予想どおり1株当たり4円とさせていただきます。

これらを受け、本年10月、当中間期の決算発表と同時に、当社のビジネスモデルを変革するための経営方針を発表いたしました。この経営方針には、当中間期の業績に関する課題の解決も含まれています。経営方針の詳細につきましては、P.3「経営方針について」をご参照ください。

また、この経営方針の発表に先駆け、次世代の成長を目指して、ネットワークビジネスの再編に着手するなど、既にビジネスモデルの変革に着手し始めています。

これからも、長期戦略に基づき、変革を続けていくことが当社にとっての最重要課題であると考え、できる限りのスピード感をもってそれを実行したいと考えております。そして、その状況と対策については、適宜、みなさまにご報告させていただく所存です。

今後とも、富士通グループはお客様のかけがえのないパートナーとして、ステークホルダーのみなさまとともに、100周年、さらにその先に向けた成長を目指してまいります。株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年11月

### 2015年度業績見通し

(単位: 億円)

セグメント	2014年度実績	2015年度予想	
売上収益	テクノロジーソリューション	33,028	34,000
	ユビキタスソリューション	10,628	10,300
	デバイスソリューション	5,956	6,300
	その他/消去又は全社	△ 2,080	△ 1,800
	合計	47,532	48,800
営業利益	テクノロジーソリューション	2,224	2,350
	ユビキタスソリューション	87	△ 100
	デバイスソリューション	369	400
	その他/消去又は全社	△ 895	△ 1,150
	合計 (営業利益率)	1,786 (3.8%)	1,500 (3.1%)
当期利益	1,400	1,000	
フリー・キャッシュ・フロー	796	600	

\* 本報告書においては、親会社の所有者に帰属する当期利益を「当期利益」として表示しております。

# 2015年度中間期の連結決算概要

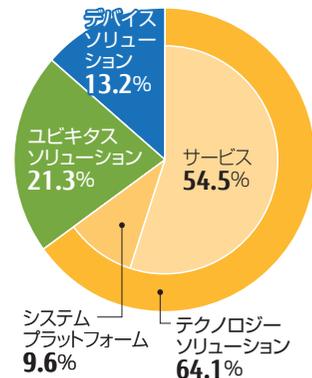
詳細は、当社ホームページ(<http://pr.fujitsu.com/jp/ir/finance/>)に掲載の「2015年度 第2四半期 連結決算概要」をご参照ください。

## 2015年度中間期連結業績

### 決算ハイライト(単位:億円)

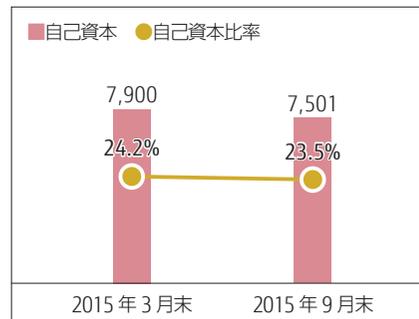
	2014年度中間期	2015年度中間期
売上収益 (海外売上比率)	21,928 (40.5%)	22,412 (41.7%)
営業利益	322	△ 124
当期利益	241	△ 159
フリー・キャッシュ・フロー	△ 47	△ 390

### 売上比率

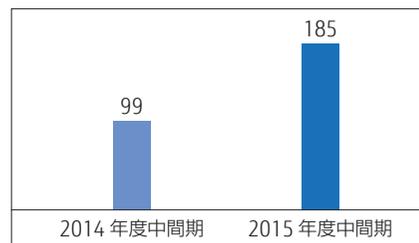
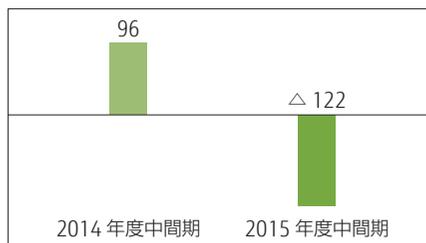
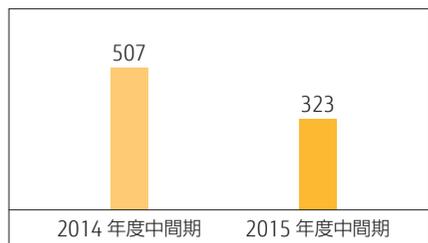


\* 売上収益はセグメント間の内部売上収益を含みます。

### 自己資本比率(単位:億円)



### セグメント別営業利益(単位:億円)



### テクノロジーソリューション

●テクノロジーソリューションは、減益となりました。サービスは、システムインテグレーションが金融分野や公共分野で顧客の投資拡大により増収となった効果があったものの、一部の国内子会社で退職給付制度移行に伴う一時的な費用負担があったほか、ISP事業の拡販費用の増加がありました。システムプラットフォームは、ネットワークプロダクトが顧客投資の端境期にあり、減収となった影響に加え、国内ネットワーク事業の従業員の再配置等に係る一時費用約50億円の負担がありました。

### コピキタスソリューション

●パソコンがOSの製品サポート終了に伴う買い替え需要が前年度の第1四半期で一巡し減収となった影響を受けたほか、米国ドルに対しユーロ安、円安が進行したことにより欧州および国内拠点で米国ドル建の部材調達コストが上昇した影響があり、また、携帯電話の一部機種で発生した不具合の対策費用の負担があり悪化しました。

### デバイスソリューション

●LSIがスマートフォン向けを中心に増収となった影響のほか、米国ドルに対し円安が進行したことにより、LSI、電子部品ともに、米国ドル建の輸出売上が増加した影響があり増益となりました。

### その他/消去又は全社

●IoTの活用基盤としての次世代型クラウドや、未来医療などの分野で戦略投資を拡充しました。

### 株式の状況(2015年9月30日現在)

発行可能株式総数	5,000,000,000株
発行済株式の総数	2,070,018,213株
資本金	324,625,075,685円
株主数	163,952名(前年度末比10,853名増)

### 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
富士電機株式会社	228,391	11.04
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	70,757	3.42
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	69,277	3.35
富士通株式会社従業員持株会	53,678	2.59
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー	37,779	1.83
株式会社みずほ銀行	36,963	1.79
朝日生命保険相互会社	35,180	1.70
ザバンクオブニューヨーク メロンエスエーエヌブイ10	32,329	1.56
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー505225	30,621	1.48
ステートストリートバンクウエスト クライアントトリーティー505234	28,627	1.38

(注)富士電機株式会社および株式会社みずほ銀行の持株数には、退職給付信託としてみずほ信託銀行株式会社に信託され、資産管理サービス信託銀行株式会社に再信託された信託財産を含んでおります。

# TOPICS

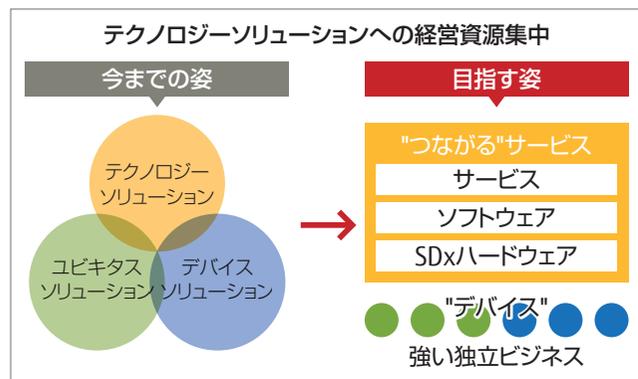
## 経営方針について

2015年10月に発表いたしました当社の経営方針においては、当社グループのビジネスを持続的に成長させるために取り組むべき事項として、

①つながるサービスにフォーカスした「ビジネスモデル変革」、②「デジタル・イノベーション」の可能性の追求、③それらを「グローバル」に実行することの3つを掲げています。

### ①ビジネスモデル変革

目指すビジネスモデル



「つながるサービス」を中心に当社のビジネス構造を変革いたします。

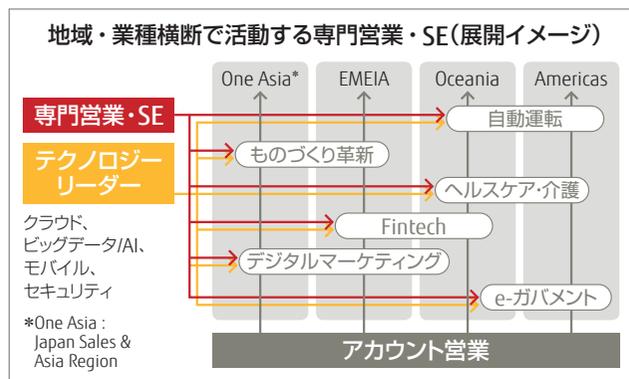
「テクノロジーソリューション」「ユビキタスソリューション」「デバイスソリューション」が垂直に統合された従来までのビジネス構造に代えて、IoTが進化する市場において、当社が優位性を持つ「テクノロジーソリューション」に経営資源を集中し、「つながるサービス」として、グローバルに展開し、競争力を高めてまいります。

「つながるサービス」とは、ソリューション/SI、インフラサービスによって蓄積されたノウハウ、クラウド、ミドルウェアなどの豊富なソフトウェア、サーバ/ストレージ/ネットワークといったコアハードのソフト化により、さらに統合、洗練されたサービスをお客様に提供することを目指すものです。

また、「ユビキタスソリューション」や「デバイスソリューション」のように、より機動性を求められる事業は、グループ会社として独立させ、単独でも競争に勝ち抜く製品開発とビジネス展開を目指していきます。

### ②デジタル・イノベーション

お客様への"深化"



「デジタル・イノベーション」では、営業力の強化に取り組みます。

お客様の事業や新規プロジェクトの早い段階から、パートナーとしてより深く参加することを目的として、専門営業をグローバルに強化いたします。この専門営業は、特定の業種や事業やサービス分野、コア技術に深い知識・経験を有し、お客様を企画段階からサポートします。従来のお客様軸でお客様をサポートするアカウント営業と一体となって、IoTの進化とともに増加する新たな領域での共同関係を築きます。

お客様に対するワンストップのサポートは、当社の従来からの強みであり、これに専門力を加えることで、より差別化を図れるものと確信しております。

用語解説

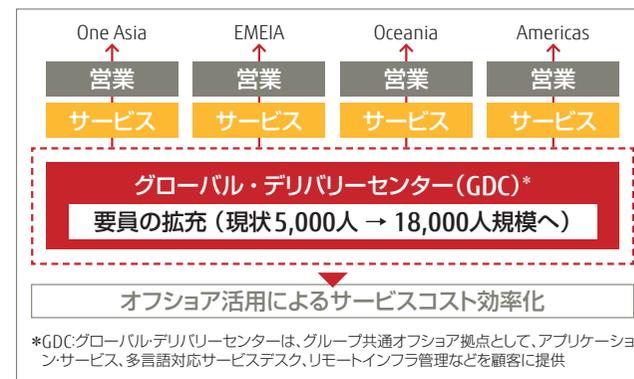
**IoT (Internet of Things)** : パソコンやサーバなどに留まらず、様々な物がインターネットに接続され、情報交換する仕組み。

**ビッグデータ** : 大量かつ多種多様なデータの中で、それらを活用することで新たな価値を生み出すことができるとして注目されている。

**AI (Artificial Intelligence)** : 人工知能。今後、様々な分野で活用されることが期待されている。

### ③グローバル・プレゼンス

グローバルに柔軟なデリバリー体制



昨年スタートした「グローバルマトリックス体制」の一環として構築したグローバルデリバリー体制を進化させ、今年度より、グローバル・デリバリーセンター(GDC)をさらに拡充します。GDCの要員を拡充し、このリソースを、統一管理のもと、世界複数か国でプールし、各リージョンから柔軟に活用できるようにするとともに、大幅なコスト効率化を図ります。

また、デジタル・イノベーションの大きな市場として期待される、アジアに対する営業体制を強化いたしました。従来、別々であった日本とAsiaリージョンの営業体制を「One Asia」として統合することにより、日本の有するノウハウをアジアに浸透させるとともに、投資や商談などの意思決定のスピードアップを図ります。